

農地・水・環境を守る

農村の価値は、農業を支えることだけではありません。古くから伝承されてきた文化、棚田の美しい景観、バイオマスの利用による地球環境の保全など、多面的な役割を担っています。

みんなで守る地域の資源

日本の農村は、水路が毛細血管のように張り巡らされています。その水は、農作物を養い、美しい景観を作り、様々な生き物が暮らす場となってきました。このような美しい農村は、そこに住む人たちによって守られてきました。

「普請」という言葉をご存知ですか？春彼岸や秋彼岸の頃など定期的に、一戸から一人ずつ出て、村内の道路や水路、ため池などの保全修理、草

刈りや除草などを共同で行う勤労奉仕の年中行事のことです。「普く人々に請う」という意味で、多くの人々に呼びかけて労役についてもらったことに由来します。農村の人たちは協力して地域の資源を作り上げ、守ってきたのです。

農村の資源には、食べものを生み出す役割だけでなく、洪水や土砂崩れを防止し、気候を緩和し、心の安らぎをもたらすといった役割があり

ます。このような役割は「多面的機能」と呼ばれています。この多面的機能の経済価値は少なくとも8兆円にのぼると試算されています[※]。これは、一年間に生産される農産物の価格8兆9千億円(平成15年)と同程度の規模になります。

その農業集落で変化が起きています。農家の高齢化は全国平均の20年先を進んでいるといわれています。農業集落の混住化も進行しており世

帯のうち農家は11%に過ぎません。このようなことから資源を守る地域の「まとまり」が弱まっているのです。将来にわたって共同活動を続けていくには、農業者だけでは限界に達しています。地域住民、自治会、関係団体などが幅広く参加する活動組織を立ち上げ、施設を長持ちさせるようなきめ細かな手入れや農村の自然や景観などを守る地域共同活動が必要になっています。

※日本学術会議答申(平成13年)

■農業の多面的機能の経済価値

項目	評価額
洪水を防ぐ	3兆4,988億円/年
川の水量を安定させる	1兆4,633億円/年
雨水を地下水として蓄える	537億円/年
土が流れ出すのを防ぐ	3,318億円/年
土砂崩れを防ぐ	4,782億円/年
水をきれいにする	123億円/年
暑さをやわらげる	87億円/年
旅行など心の安らぎをもたらす	2兆3,758億円/年
(参考)農業の総産出額(平成15年)	8兆9,261億円/年

出典:日本学術会議答申(平成13年)

農地・水・環境保全向上対策の概要

農村の農地・水・環境を守り、質を高める地域共同の取り組みの支援が始まります。

①共同活動(資源保全)への支援

水路やため池などの施設の保全や生態系保全、景観形成などの効果の高い活動に地域で取り組む場合には、共同活動への支援が受けられます。

②営農活動への支援

地域共同への取組に加えて、化学肥料と化学合成農薬の5割削減等の環境にやさしい農業に地域で取り組む場合には、営農活動への支援も受けられます。



農地



農業用水・
農地周辺の水路



ため池

農村の地域資源

生産資源

■生産資源としての役割

・農地、農業用水、農業水利施設、農道など農業の持続を可能とする基盤

環境資源

■環境資源としての役割

・自然生態系、田園景観、水質など農業の持続を通じ発揮される多面的機能

●資源を保全する活動



寄合い



江ざらい



道普請



草刈り



点検



補修

地域コミュニティが支える地域資源

・集落・水利組合・土地改良区などの地域社会システム・地域共同活動などの管理ルールによって資源を保全する活動が行われています。

そこが聞きたい

京都大原の里づくり

京都市の北部、比叡山の麓にある大原では、農家の高齢化や生産基盤整備の遅れから、農地の荒廃と遊休農地が増加し、農村景観が悪化していました。

後世に残す魅力ある里づくりを目指し、「大原農業クラブ」「京都大原里づくり協会」「京都大原土地改良区」の3つの組織が立ち上げられ、組織を中心として地域資源を保全する共同活動に取り組んできました。

平成18年度には、農地・水・農村環境保全向上対策実験事業のモデル地区に選ばれ、大原里づくりトライアングル(3つの組織からなる連携組織)が設立され、京都市と協定を結び、水路の維持管理や遊休農地の再生、生態系保全など、地域共同活動に取り組んでいます。

